校異源氏物語・さわらひ

やふしわかねは春のひかりをみたまふにつけてもいかてかくなからへにける月日ならむとゆめのやうにのみおほえ給ゆきかふ時　くにしたかひはなとりのいろをもねをもおなし心におきふしみつゝはかなきことをもゝとするゑをとりていひかはし心ほそき世のうさもつらさもうちかたらひあはせきこえしにこそなくさむかたもありしかおかしきことあはれなるふしをもきゝしる人もなきまゝによろつかきくらし心ひとつをくたきて宮のおはしまさすなりにしかなしさよりもやゝうちまさりてこひしくわひしきにいかにせむとあけくるゝもしらすまとはれたまへと世にとまるへきほとはかきりあるわさなりけれはしなれぬもあさましあさりのもとよりとしあらたまりてはなに事かおはしますらむ御いのりはたゆみなくつかうまつり侍りいまはひとゝころの御ことをなむやすからすねむしきこえさするなときこえてわらひつく　くしおかしきこにいれてこれはわらはへのくやうして侍るはつをなりとてたてまつれりてはいとあしうてうたはわさとかましくひきはなちてそかきたる

　きみにとてあまたの春をつみしかはつねをわすれぬはつわらひなり御前によみ申さしめたまへとありたいしと思まはしてよみいたしつらむとおほせはうたの心はへもいとあはれにてなをさりにさしもおほさぬなめりとみゆることのはをめてたくこのましけにかきつくしたまへる人の御ふみよりはこよなくめとまりてなみたもこほるれは返事かゝせ給

　このはるはたれにかみせむなき人のかたみにつめるみねのさわらひつかひにろくとらせさせ給いとさかりにゝほひおほくおはする人のさま　くの御物おもひにすこしうちおもやせたまへるいとあてになまめかしきけしきまさりてむかし人にもおほえ給へりならひたまへりしおりはとり　くにてさらにゝたまへりともみえさりしをうちわすれてはふとそれかとおほゆるまてかよひたまへるを中納言殿のからをたにとゝめてみたてまつる物ならましかはとあさゆふにこひきこえ給めるにおなしくはみえたてまつり給御すくせならさりけむよとみたてまつる人　くはくちおしかるかの御あたりの人のかよひくるたよりに御ありさまはたえすきゝかはしたまひけりつきせすおもひほれたまひてあたらしきと

しともいはすいやめになむなりたまへるときゝ給てもけにうちつけの心あさゝには物したまはさりけりといとゝいまそあはれもふかくおもひしらるゝ宮はおはしますことのいとゝころせくありかたけれは京にわたしきこえむとおほしたちにたりないえんなと物さはかしきころすくして中納言の君心にあまることをもまたゝれにかはかたらはむとおほしわひて兵部卿の宮の御かたにまいりたまへりしめやかなるゆふくれなれは宮うちなかめたまひてはしちかくそおはしましけるさうの御ことかきならしつゝれいの御心よせなるむめのかをめておはするしつえをゝしおりてまいり給へるにほひのいとえんにめてたきをおりおかしうおほして

おる人の心にかよふはなゝれやいろにはいてすしたにゝほへるとのたまへは

みる人にかことよせける花のえを心してこそおるへかりけれわつらはしくとたはふれかはしたまへるいとよき御あはひなりこまやかなる御物かたりともになりてはかの山さとの御ことをそまつはいかにと宮はきこえ給中納言もすきにしかたのあかすかなしきことそのかみよりけふまておもひのたえぬよしおり

くにつけてあはれにもおかしくもなきみわらひみとかいふらむやうにきこえいて給にましてさはかりいろめかしくなみたもろなる御くせは人の御うへにてさへそてもしほるはかりになりてかゐ　くしくそあひしらひきこえ給めるそらのけしきも又けにそあはれしりかほにかすみわたれるよるになりてはけしうふきいつるかせのけしきまたふゆめきていとさむけにおほとなふらもきえつゝやみはあやなきたと　くしさなれとかたみにきゝさしたまふへくもあらすつきせぬ御物かたりをえはるけやりたまはて夜もいたうふけぬ世にためしありかたかりける中のむつひをいてさりともいとさのみはあらさりけむとのこりありけにとひなしたまふそわりなき御心ならひなめるかしさりなからも物に心えたまひてなけかしき心のうちもあきらむはかりかつはなくさめまたあはれをもさましさま　くにかたらひたまふ御さまのおかしきにすかされたてまつりてけに心にあまるまておもひむすほゝるゝことゝもすこしつゝかたりきこえ給そこよなくむねのひまあく心ちしたまふ宮もかの人ちかくわたしきこえてむとするほとのことゝもかたらひきこえ給をいとうれしきことにも侍かなあいなく身つからのあやまちとなむおもふたまへらるゝあかぬむかしのなこりをまたたつぬへきかたも侍らねはおほかたにはなにことにつけても心よせきこゆへき人となむおもふたまふるをもしひなくやおほしめさるへきとてかのこと人となおもひわきそ

とゆつり給し心をきてをもすこしはかたりきこえ給へといはせのもりのよふこ
とりめいたりしよのことはのこしたりけり心のうちにはかくなくさめかたきか
たみにもけにさてこそかやうにもあつかひきこゆへかりけれとくやしきことや
う　くまさりゆけといまはかひなき物ゆへつねにかうのみおもはゝあるましき
心もこそいてくれたかためにもあちきなくおこかましからむと思はなるさても
おはしまさんにつけてもまことにおもひうしろみきこえんかたはまたゝれかは
とおほせは御わたりのことゝもゝ心まうけせさせ給かしこにもよきわか人わら
はなともとめて人　くは心ゆきかほにいそきおもひたれといまはとてこのふし
みをあらしはてむもいみしく心ほそけれはなけかれ給ことつきせぬをさりとて
も又せめて心こはくたえこもりてもたけかるましくあさからぬ中のちきりもた
えはてぬへき御すまゐをいかにおほしえたるそとのみうらみきこえ給もすこし
はことはりなれはいかゝすへからむとおもひみたれたまへりきさらきのついた
ちころとあれはほとちかくなるまゝにはなの木とものけしきはむものこりゆか
しくみねのかすみのたつをみすてむこともおのかとこよにてたにあらぬたひね
にていかにはしたなく人わらはれなることもこそなとよろつにつゝましく心ひ
とつにおもひあかしくらしたまふ御ふくもかきりあることなれはぬきすてたま
ふにみそきもあさき心ちそするおやひとゝころはみたてまつらさりしかはこひ
しきことはおもほえすその御かはりにもこのたひの衣をふかくそめむと心には
おほしのたまへとさすかにさるへきゆへもなきわさなれはあかすかなしきこと
かきりなし中納言とのより御くるま御前の人　くはかせなとたてまつれたまへ
り

はかなしやかすみのころもたちしまに花のひもとくおりもきにけりけにいろ　くいときよらにてたてまつれたまへり御わたりのほとのかつけものともなとこと　くしからぬ物からしな　くにこまやかにおほしやりつゝいとおほかりおりにつけてはわすれぬさまなる御心よせのありかたくはらからなともえいとかうまてはおはせぬわさそなと人　くはきこえしらすあさやかならぬふる人ともの心にはかゝるかたを心にしめてきこゆわかき人は時　くもみたてまつりならひていまはとことさまになりたまはむをさう　くしくいかにこひしくおほえさせたまはんときこえあへり身つからはわたり給はむことあすとてのまたつとめておはしたりれいのまらうとゐのかたにおはするにつけてもいまはやう　く物なれてわれこそ人よりさきにかうやうにもおもひそめしかなとありしさまのたまひし心はへを思いてつゝさすかにかけはなれことのほかになとははしたな

めたまはさりしをわか心もてあやしうもへたゝりにしかなとむねいたくおもひつゝけられ給かいはみせしさうしのあなも思いてらるれはよりてみたまへとこの中をはおろしこめたれはいとかひなしうちにも人　くおもひいてきこえつゝうちひそみあへり中の宮はましてもよをさるゝ御なみたのかはにあすのわたりもおほえ給はすほれ　くしけにてなかめふしたまへるにつきころのつもりもそこはかとなけれといふせく思たまへらるゝをかたはしもあきらめきこえさせてなくさめ侍らはやれいのはしたなくなさしはなたせたまひそいとゝあらぬ世の心ちし侍りときこえ給へれはゝしたなしとおもはれたてまつらむとしもおもはねといさや心ちもれいのやうにもおほえすかきみたりつゝいとゝはか　くしからぬひかこともやとつゝましうてなとくるしけにおほいたれといとおしなとこれかれきこえて中のさうしのくちにてたいめんしたまへりいと心はつかしけになまめきてまたこのたひはねひまさりたまひにけりとめもおとろくまてにほひおほく人にもにぬようゐなとあなめてたの人やとのみゝえたまへるをひめ宮はおもかけさらぬ人の御ことをさへおもひいてきこえ給にいとあはれとみたてまつり給つきせぬ御ものかたりなともけふはこといみすへくやなといひさしつゝわたらせ給へきところちかくこのころすくしてうつろひ侍へけれはよ中あか月とつき　くしき人のいひ侍めるなにことのをりにもうとからすおほしのたまはせは世に侍らむかきりはきこえさせうけ給はりてすくさまほしくなん侍るをいかゝはおほしめすらむ人の心さま　くに侍る世なれはあいなくやなとひとかたにもえこそおもひ侍らねときこえ給へはやとをはかれしと思心ふかくはへるをちかくなとのたまはするにつけてもよろつにみたれ侍りてきこえさせやるへきかたもなくなと所　くいひけちていみしく物あはれとおもひたまへるけはひなといとようおほえたまへるを心からよその物にみなしつるといとくやしくおもひゐたまへれとかひなけれはそのよのことかけてもいはすわすれにけるにやとみゆるまてけさやかにもてなしたまへり御まへちかきこうはいのいろもかもなつかしきにうくひすたにみすくしかたけにうちなきてわたるめれはましてはるやむかしのと心をまとはしたまふとちの御ものかたりにおりあはれなりかしかせのさとふきいるゝにはなのかもまらうとの御にほひもたち花ならねとむかしおもひいてらるゝつまなりつれ　くのまきらはしにも世のうきなくさめにも心とゝめてもてあそひたまひし物をなと心にあまりたまへは

　みる人もあらしにまよふ山さとにむかしおほゆる花のかそするいふとてなくほのかにてたえ　くきこえたるをなつかしけにうちすんしなして

そてふれしむめはかはらぬにほひにてねこめうつろふやとやことなるたえぬなみたをさまよくのこひかくしてことおほくもあらすまたも猶かやうにてなむなにことももきこえさせよかるへきなときこえをきてたち給ぬ御わたりにあるへきことゝも人　くにのたまひをくこのやともりにかのひけかちのとのゐ人なとはさふらふへけれはこのわたりのちかき御さうともなとにそのことゝもゝのたまひあつけなとまめやかなることゝもをさへさためをき給弁そかやうの御ともにもおもひかけすなかきいのちいとつらくおほえ侍るを人もゆゝしくみおもふへけれはいまは世にある物ともひとにしられ侍らしとてかたちもかへてけるをしゐてめしいてゝいとあはれとみたまふれいのむかし物かたりなとせさせ給てこゝには猶とき　くはまいりくへきをいとたつきなく心ほそかるへきにかくて物したまはんはいとあはれにうれしかるへきことになむなとえもいひやらすなき給いとふにはえてのひ侍るいのちのつらくまたいかにせよとてうちすてさせ給けんとうらめしくなへての世をおもひたまへしつむにつみもいかにふかく侍らむと思けることゝもをうれへかけきこゆるもかたくなしけなれといとよくいひなくさめ給いたくねひにたれとむかしきよけなりけるなこりをそきすてたれはひたひのほとさまかはれるにすこしわかくなりてさるかたにみやひかなりおもひわひてはなとかゝるさまにもなしたてまつらさりけむそれにのふるやうもやあらましさてもいかに心ふかくかたらひきこえてあらましなとひとかたならすおほえ給にこの人さへうらやましけれはかくろへたる木丁をすこしひきやりてこまかにそかたらひ給けにむけにおもひほけたるさまなから物うちいひたるけしきようゐくちおしからすゆへありける人のなこりとみえたり

さきにたつなみたのかはにみをなけは人にをくれぬいのちならましとうちひそみきこゆそれもいとつみふかゝなることにこそかのきしにいたることなとかさしもあるましきことにてさへふかきそこにしつみすくさむもあいなしすへてなへてむなしくおもひとるへき世になむなとの給

身をなけむなみたのかはにしつみてもこひしきせゝにわすれしもせしいかならむ世にすこしもおもひなくさむることありなむとはてもなき心ちし給かへらむかたもなくなかめられて日もくれにけれとすゝろにたひねせむも人のとかむることやとあひなけれは返たまひぬおもほしのたまへるさまをかたりて弁はいとゝなくさめかたくゝれまとひたりみな人は心ゆきたるけしきにて物ぬひいとなみつゝおひゆかめるかたちもしらすつくろひさまよふにいよ　くやつして

人はみないそきたつめるそてのうらにひとりもしほをたるゝあま哉とうれ

へきこゆれは

しほたるゝあまの衣にことなれやうきたるなみにぬるゝわかそて世にすみつかむこともいとありかたかるへきわさとおほゆれはさまにしたかひてこゝをはあれはてしとなむおもふをさらはたいめんもありぬへけれとしはしのほとも心ほそくてたちとまりたまふをみをくにいとゝ心もゆかすなむかゝるかたちなる人もかならすひたふるにしもたえこもらぬわさなめるを猶世のつねにおもひなして時　くもみえ給へなといとなつかしくかたらひ給むかしの人のもてつかひたまひしさるへき御てうとゝもなとはみなこの人にとゝめをき給てかく人よりふかくおもひしつみたまへるをみれはさきの世もとりわきたるちきりもや物したまひけむとおもふさへむつましくあはれになむとのたまふにいよ　くわらはへのこひてなくやうに心おさめんかたなくおほゝれゐたりみなかきはらひよろつとりしたゝめて御くるまともよせて御せんの人　く四ゐ五ゐいとおほかり御身つからもいみしうおはしまさまほしけれとこと　くしくなりて中　くあしかるへけれはたゝしのひたるさまにもてなして心もとなくおほさる中納言殿よりも御せんの人かすおほくたてまつれたまへりおほかたのことをこそ宮よりはおほしをきつめれこまやかなるうち　くの御あつかひはたゝこの殿よりおもひよらぬことなくとふらひきこえ給日くれぬへしとうちにもとにもゝよほしきこゆるに心あはたゝしくいつちならむとおもふにもいとはかなくかなしとのみおもほえたまふに御くるまにのるたいふの君といふ人のいふ

ありふれはうれしきせにもあひけるを身をうちかはになけてましかはうちゑみたるを弁のあまの心はへにこよなうもあるかなと心つきなうもみたまふいまひとり

すきにしかこひしきこともわすれねとけふはたまつもゆく心かないつれもとしへたる人　くにてみなかの御かたをは心よせましきこえためりしをいまはかくおもひあらためてこといみするも心うの世やとおほえたまへは物もいはれたまはすみちのほとのはるけくはけしき山みちのありさまをみたまふにそつらきにのみおもひなされし人の御中のかよひをことはりのたえまなりけりとすこしおほししられける七日の月のさやかにさしいてたるかけおかしくかすみたるをみたまひつゝいとゝほきにならはすくるしけれはうちなかめられて

なかむれは山よりいてゝゆく月も世にすみわひてやまにこそいれさまかはりてつゐにいかならむとのみあやうくゆくすゑうしろめたきにとしころなにことをかおもひけんとそとりかへさまほしきやよひうちすきてそおはしつきたる

みもしらぬさまにめもかゝやくやうなる殿つくりのみつはよつはなる中にひきいれてみやいつしかとまちおはしましけれは御くるまのもとに身つからよらせ給ておろしたてまつり給御しつらひなとあるへきかきりして女はうのつほね

くまて御心とゝめさせ給けるほとしるくみえていとあらまほしけなりいかはかりのことにかとみえたまへる御ありさまのにはかにかくさたまりたまへはおほろけならすおほさるゝことなめりと世人も心にくゝおもひおとろきけり中納言は三条の宮にこの廿よ日のほとにわたりたまはんとてこのころはひゝにおはしつゝみたまふにこの院ちかきほとなれははけはひもきかむとてよふくるまておはしけるにたてまつれたまへる御せんの人　くかへりまいりてありさまなとかたりきこゆいみしう御心にいりてもてなしたまふなるをきゝ給にもかつはうれしき物からさすかにわか心なからおこかましくむねうちつふれてものにもかなやとかへす　くひとりこたれて

しなてるやにほのみつうみにこく舟のまほならねともあひみし物をとそいひくたさまほしき右のおほとのは六のきみを宮にたてまつり給はんことこの月にとおほしさためたりけるにかくおもひのほかの人をこのほとよりさきにとおほしかほにかしつきするゑたまひてはなれおはすれはいと物しけにおほしたりときゝ給もいとおしけれは御ふみは時　くたてまつり給御もきのこと世にひゝきていそき給へるをのへたまはんも人わらへなるへけれははつかあまりにきせたてまつり給おなしゆかりにめつらしけなくともこの中納言をよそ人にゆつらむかくちおしきにさもやなしてましとしころ人しれぬものにおもひけむ人をもなくなしてもの心ほそくなかめゐたまふなるをなとおほしよりてさるへき人してけしきとらせ給けれと世のはかなさをめにちかくみしにいと心うく身もゆゝしうおほゆれはいかにも　くさやうのありさまは物うくなんとすさましけなるよしきゝ給ていかてかこのきみさへおほな　くこといつることを物うくはもてなすへきそとうらみたまひけれとしたしき御中らひなからも人さまのいと心はつかしけに物し給へはえしゐてしもきこえうこかしたまはさりけりはなさかりのほと二条の院のさくらをみやり給にぬしなきやとのまつ思やられたまへは心やすくやなとひとりこちあまりて宮の御もとにまいりたまへりこゝかちにおはしましつきていとようすみなれたまひにたれはめやすのわさやとみたてまつるものからかれいのいかにそやおほゆる心のそひたるそあやしきやされとしちの御心はへはいとあはれにうしろやすくそ思きこえ給けるなにくれと御物かたりきこえかはしたまひてゆふつかた宮は内へまいり給はんとて御くるまのさうそくし

て人　くおほくまいりあつまりなとすれはたちいて給てたいの御かたへまいりたまへり山さとのけはひゝきかへてみすのうち心にくゝすみなしておかしけなるわらはのすきかけほのみゆるして御せうそこきこえ給へれは御しとねさしいてゝむかしの心しれる人なるへしいてきて御返きこゆあさゆふのへたてもあるましうおもふたまへらるゝほとなからそのことゝなくてきこえさせんも中　くなれ　くしきとかめやとつゝみ侍るほとに世中かはりにたる心ちのみそし侍るや御まへのこすゑもかすみへたてゝみえ侍るにあはれなることおほくも侍るかなときこえてうちなかめて物し給けしき心くるしけなるをけにおはせましかはおほつかなからすゆき返かたみに花のいろとりのこゑをもをりにつけつゝすこし心ゆきてすくしつへかりける世をなとおほしいつるにつけてはひたふるにたえこもりたまへりしすまゐの心ほそさよりもあかすかなしうくちおしきことそいとゝまさりける人　くも世のつねにうと　くしくなもてなしきこえさせ給そかきりなき御心のほとをはいましもこそみたてまつりしらせたまふさまをもみえたてまつらせたまふへけれなときこゆれとひとつてならすふとさしいてきこえむことのなをつゝましきをやすらひたまふほとに宮いてたまはんとて御まかり申しにわたりたまへりいときよらにひきつくろひけさうしたまひてみるかひある御さまなり中納言はこなたになりけりとみたまひてなとかむけにさしはなちてはいたしするゑたまへる御あたりにはあまりあやしと思まてうしろやすかりし心よせをわかためはおこかましきこともやとおほゆれとさすかにむけにへたておほからむはつみもこそうれちかやかにてむかし物かたりもうちかたらひたまへかしなときこえ給ものからさはありともあまり心ゆるひせんもまたいかにそやうたかはしきしたの心にそあるやとうちかへしのたまへはひとかたならすわつらはしけれとわか御心にもあはれふかくおもひしられにし人の御心をいましもをろかなるへきならねはかの人もおもひのたまふめるやうにいにしへの御かはりとなすらへきこえてかうおもひしりけりとみえたてまつるふしもあらはやとはおほせとさすかにとかくやとかた　くにやすからすきこえなしたまへはくるしうおほされけり